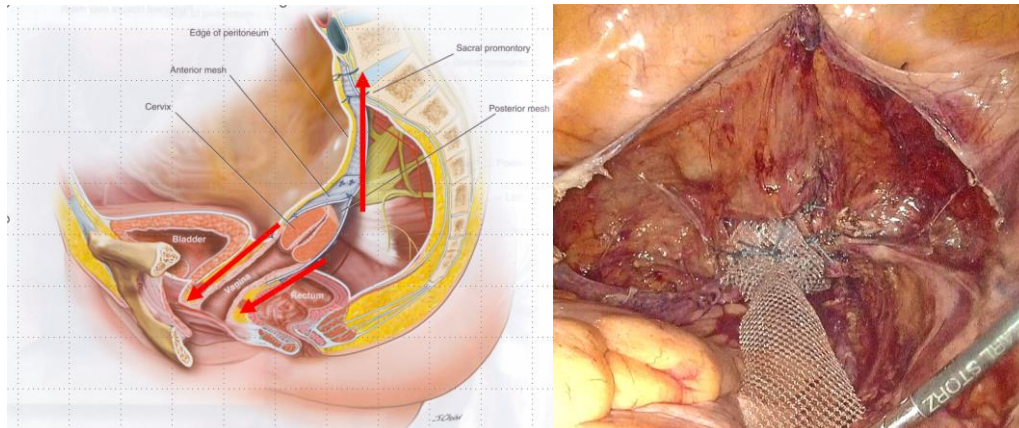


骨盤臓器脱の患者さんに対して腹腔鏡下仙骨陰固定術（LSC）を開始しました（2022/10）
（LSC：Laparoscopic sacrocolpopexy）



腹腔鏡下仙骨陰固定術（ふくくうきょうかせんこつちつこていじゅつ）は骨盤臓器脱に対する腹腔鏡手術の一つです。骨盤臓器脱の原因である脆弱化した骨盤底に対して、その補強としてメッシュと呼ばれる医療用人工繊維を用いて骨盤底を再建します。1990年代に始まった本手術は、もともと子宮脱あるいは陰道断端脱に対して主に施行されていましたが、腹腔鏡手術の器具・技術の進歩によって、現在ではほぼ全ての骨盤臓器脱に対して治療が可能となっています。

特徴

本手術の特徴は、メッシュを使用するため再発率が低いこと、腹腔鏡で行うため侵襲が低く、高精度な治療が行えることです。創も小さく出血もほとんどありませんので、高い有効性と安全性を併せ持つ低侵襲手術として、全国的に手術件数が増加しております。

デメリットとして手術時間がやや長いことが挙げられます。それは、他の腹腔鏡手術ではあまり行わない縫合操作が多いこと、メッシュという独特の材料の扱いに多少の慣れを要すること、が主な理由です。

具体的な治療経過

手術時間は通常 2-3 時間で、手術翌日には食事も歩行も可能です。入院期間は約 1 週間です。

また、当科の特徴として、個々の患者さんの要望や併存疾患、骨盤臓器脱の状態に合わせて、

オーダーメイドで手術内容を計画していきます。子宮や卵巣などの婦人科疾患があれば同時に治療することを検討します。

術後の生活で気を付けること

退院直後から日常生活に制限はなく、デスクワークなど体の負担の少ない仕事であればすぐに再開いただいて構いません。ただし、重いものを持つような仕事は 1 ヶ月間は控えることを勧めています。

術後の生活で、メッシュが入っていることの異物感を感じる方はほとんどいません。また、メッシュそのものは手術で使う糸を編み込んで作られたものですので、MRI 検査や大腸カメラなど含めて今後受けられなくなる検査があるわけではありません。

何かご質問などがありましたら当科産婦人科外来にご相談ください。